



INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES
JAPAN ICOMOS NATIONAL COMMITTEE
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F, Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo Japan 101-0003
Tel & Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

報道機関 各位

報道発表資料

日本の 20 世紀遺産 20 選の選定について

日本イコモス国内委員会

報道用説明会の開催日 12月8日(金) 16:00~17:00

場 所 工学院大学新宿校舎 1317号室

〒163-8677 東京都新宿区西新宿 1-24-2 TEL.03-3340-0120

本件に関する問い合わせ先

後藤 治 (日本イコモス国内委員会 20世紀遺産 20選選定 WG 主査)

工学院大学 TEL.03-3340-0120 ogoto@cc.kogakuin.ac.jp

山名善之 (日本イコモス国内委員会 20世紀国内学術委員会委員長)

東京理科大学 TEL.090-5572-6874 atelieryamana@outlook.jp

矢野和之 (日本イコモス国内委員会事務局長/文化財保存計画協会)

日本イコモス事務局 TEL. 03-3261-5303 jpicomos@japan-icomos.org

報道機関 各位

このたび、日本の 20 世紀遺産 20 選を（別紙 1）の通り、選定いたしましたので、報告いたします。

ユネスコ世界文化遺産に関する諮問機関であるイコモス（ICOMOS／国際記念物遺跡会議、International Council on Monuments and Sites）は文化遺産に関わるさまざまな課題や問題について、それぞれの分野ごとに国際学術委員会（ISC）を設置して取り組んでいます。そのひとつに 20 世紀の文化遺産（以下、「20 世紀遺産」と略す）の様々な課題について議論する 20 世紀国際学術委員会（ISC20c）があります。20 世紀遺産は文化遺産に関わる NGO の DOCOMOMO（Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of the Modern Movement）等の活動により近代建築運動の建築作品の文化遺産としての価値がひろく認められるようになり、「ル・コルビュジェの建築作品—近代建築運動における顕著な貢献」をはじめ著名な建築家による建築作品が世界文化遺産に登録されてきました。一方、世界文化遺産に登録された 20 世紀遺産が著名な建築家による建築作品に偏っている状況を受けて、20 世紀遺産の多様性についての議論の必要性が 2010 年頃から指摘されはじめました。そこで、ISC20c に委員として常時出席する 30 か国ほどの国にあるイコモス国内委員会に置かれた対応組織である 20 世紀国内学術委員会（NSC20c）に対し、課題の議論を促進するために各国の 20 世紀遺産を 20 件、写真と共に提出することが求められました。これを受ける形で、日本イコモス国内委員会では、2013 年より 20 世紀国内学術委員会（NSC20c／主査：山名善之）においてこの課題に取り組むことを開始し、「日本の 20 世紀遺産 20 選 WG」（主査：後藤治）を設置し、これまで議論を重ねてきました。

このたびその議論の結果がまとまり、イコモス国内委員会理事会において、その選定が了承されましたので、ここに発表する次第です。

別紙 1 のリストには、既に世界文化遺産となっている原爆ドームの範囲拡大の提案を含むため、合計で 21 か所の文化遺産が記載されています。各遺産の次に示した一文は、WG が選定の根拠とした理由です。各遺産の最後に示したローマ数字の番号は、世界遺産に推薦する際に根拠となる評価基準である「顕著で普遍的価値（Outstanding Universal Value）」（別紙 2）の該当番号です。

各遺産の詳細については、日本イコモス国内委員会ホームページをご参照いただけますと幸いです。

なお、各遺産に示したコアゾーン（構成資産がある地域）、バッファゾーン（遺産の景観等に配慮する緩衝地域）は、世界遺産の推薦にあたって設定する必要があるゾーニングです。本来このゾーニングは、文化財としての保護の範囲、景観上の規制や都市計画上の措置に基づいて決定されるものです。今回示したゾーニングは、そうした法的措置とは無関係に、想定される範囲の一案として示したものです。したがって、実際の推薦を行う場合には、より厳密な検討が必要になります。

(別紙 1)

日本の 20 世紀遺産 20 選

- ⑩ 広島平和記念資料館及び平和記念公園 / 第二次大戦からの復興・原爆ドームのエクステンション / IV、VI
- ⑪ 上野恩賜公園と文化施設群 (表慶館、東京国立博物館本館、国立科学博物館、東京文化会館他) / 境内から公園へ / II、IV
- ⑫ 国立代々木屋内総合競技場 / 大規模空間建築の傑作 / I、IV
- ⑬ 立山砂防施設群 / 水系一貫の総合的砂防システム / IV、II、V
- ⑭ 黒部川水系の発電施設群 / 自然と一体化した電源開発の究極 / IV、II、V
- ⑮ 瀬戸大橋 / 橋技術のシンボル / I、II
- ⑯ 青函トンネル / 世界最長の海底トンネル / I、II
- ⑰ 舞鶴の海軍施設と都市計画 / 生き続ける軍都の格子状街路と赤煉瓦の施設群 / IV
- ⑱ 南禅寺界隈の近代庭園群 / 琵琶湖疏水を活用した 20 世紀の和風庭園・住宅群・都市周縁部開発 / V、IV
- ⑲ 隅田川橋梁群と築地市場他を含む復興関連施設群 / 関東大震災からの復興施設と近代橋梁群による隅田川の景観 / IV、VI
- ⑳ 迎賓館赤坂離宮 / 明治の近代化における洋風建築と迎賓館への保存再生 / II、IV
- ㉑ 聴竹居 / 伝統を生かし、近代の環境工学の思想を取り入れた傑作 / I、II
- ㉒ 箱根の大規模木造宿泊施設群 / 日本古来の伝統構法を生かした温泉旅館建築と景観 / III、IV
- ㉓ 肥薩線 (旧鹿児島本線) / 黎明期鉄道技術 (英独米) の日本的展開 / V、II、VI
- ㉔ 鶴岡八幡宮境内の旧神奈川県立近代美術館 / 社寺境内に挿入されたモダニズム建築の代表 / IV、I
- ㉕ 有田の文化的景観/町並、産業・文化施設群 / 20 世紀に継続発展した伝統産業景観の代表 / V、III
- ㉖ 旧朝倉邸と代官山ヒルサイドテラス / 近代建築理論の具現化と民間による都市周縁部開発 / II、IV
- ㉗ 小岩井農場 / 欧米牧畜業の近代技術を導入し営まれ続けている農場コミュニティの景観 / V、II
- ㉘ 西条の酒造施設群 / 20 世紀に継続発展した伝統産業景観の代表 / V、III
- ㉙ 東海道新幹線 / 高速・大量輸送旅客鉄道システムの原点 / I、IV
- ㉚ 伊賀上野城下町の文化的景観 / 旧城下町の都市景観にあわせた近代建築群の代表例 / V、IV

(別紙 2)

世界文化遺産選定のための評価基準

- (i) 人類の創造的才能を表す傑作であること。
- (ii) 建築や技術、記念碑的芸術、都市計画、景観設計の発展に関連し、ある期間にわたる、又は世界のある文化圏における人類の価値観の重要な交流を示していること。
- (iii) 現存する、あるいはすでに消滅した文化的伝統や文明に関する独特な、あるいは少なくとも稀な証拠を示していること。
- (iv) 人類の歴史の重要な段階を物語る建築様式、建築的又は技術的な集合体の類型、景観に関する顕著な例であること。
- (v) あるひとつの文化（または複数の文化）を代表する伝統的居住形態、土地利用、若しくは海洋利用の顕著な例であること。又は、人類と環境との相互のかかわり合いを代表する顕著な例であること。特に抗しきれない変化によりその存続が危ぶまれているもの。
- (vi) 顕著な普遍的価値を有する出来事、生きた伝統、思想、信仰、芸術的作品、あるいは文学的作品と直接または明白な関連があること（この基準は他の基準とあわせて用いられることが望ましい）